



人が資本の優良企業



一、5Sから禪修
最近、齋董事長には講演や海外メディアからの取材依頼が増えています。これらは董事長の企業理念や経験を紹介してほしいというもので、董事長自身に対しては尊敬を込めて「企業禪師」と呼んでいます。董事長が広くにわたって尊敬されるのは、その強い意志と明瞭な知恵を備えているからだと思えます。たとえば日常の5S運動を禪修へと進化させ、従業員に精神的美化を行うといった発想は、経済界を見てもおそらく例のないことです。また、中国、ロシア、

インド文明の中から「人と人」、「人と自然」、「人と天」の理論を取り上げ、そこから「誠意と感謝報恩」、「真善美と共存共栄」、「天人合一と禪」といった3つの異なるユニークな価値観を導き出しているのも興味深いところです。

合璧会社の社内報は「合璧流」といいますが、ここからも合璧自らの理念や価値に対する自信が伺えます。「流」という字は「派」や「道」、つまりは一つの流派を意味します。完全に体系立った自然な規範のようなものがあるということ。さらに「流」には「動」、つまり提唱したり、何かを広めたり、成長したり、遠くへ行ったといった行動の意味もあります。このように社内報の名前からそこには禪の面影を見ることが出来ます。

禪修とは本質を明らかにするための、一種の自己修行で、呼吸と同じようにいつでもどこでも行われるものです。修行の方法は一つではなく、そのためにいくつかの宗派に分かれています。どれも目的は自己の本質を明らかにすることには変わりはありません。

禪と聞いて六祖・慧能大師の詩歌「菩提本無樹、明鏡亦無塵、本來無一物、何處染塵埃（菩提に本から樹など無い、明鏡にもまた台など無い、本から何も無い、何処が塵埃に染まるというのか）」を思い出す人も多いでしょう。苦行を積むことなく瞬時に悟りを開いたというものです。

しかし、わたしは5Sの修行の原理はむしろ神秀大師の作った「身は菩提樹、心は明鏡台の如し、時時に動て佛拭し、塵埃を有らしめること莫れ」のほうに近いと思えます。苦修を経て常に精進することで煩悩のない境地へと達することができるというものです。

悟りの心境に達する可能性が高いという理由で六代目として跡継ぎに選ばれたのは慧能大師でした。慧能大師はその後さまざまな苦難を体験することのみ業を取り除くことができるという考えに変わります。ところが一般人はこれが理解し難く、簡素化した禪修によって瞬時に悟りを開けるものだと思っています。さて、ここでわたしが言いたいのは神秀も慧能も目的は同じ、「因指見月（禅用語で形だけで本質の無いのはいけない）」だということです。5Sも内面化、つまりそれを行う人の心が浄化されて高いレベルに達することが大切なことです。5Sを取り入れる企業は少なくありませんが、多くは形式に留まっています。それを禪修として取り入れた合璧の発想は素晴らしいと思えます。

二、家長主義による温かさ
董事長は自力で生活を立てながら、ゼロから起業した企業家です。その後厳しい現実と激しい競争の中でまじめに働く性格と不屈の精神を磨き、さらには効率や機能、自ら実際にやってみること、人の手本となること、完璧を求めることなどにこだわってきました。わたしの印象では、董事長は威厳ある経営者で、従業員から恐れられています。一方ではいへん優しく温かいところもあっています。

董事長の管理方式は過去の日本企業に見られる「家長主義」の要素が濃いものです。家長主義とは経営者自らが一家の長

上海合璧公司を見学して

を演じ、従業員が家族を構成するというものです。家長は家の中でしつけの権利を有します。家長のしつけに対して、家族である従業員は服従が必要です。こうやってお互いに協力しながら家業を繁栄させていくのです。一方で家長は家族の面倒を見る責任を負います。家族の身に何か問題が起こった場合はその解決に全力を尽くし、家族が安心して生活できる環境を守ります。言い換えれば、家長主義には経営者と従業員の間に対等な雇用関係は存在しません。こうした雇用関係は往々にして労働契約に記された権利や義務の範囲を超えます。西洋諸国の強調する対等と協働と規則に基づいた労働関係とはまったく異なります。

わたしは「合璧流」の中で何度も会社が従業員やその家族の大きな問題を解決した例を見ました。「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」という実際の行動で従業員を助けた報道を読んでたいへん感動しました。今回の会社見学では董事長の部屋で従業員の家から寄せられたたくさんの手紙が壁に張られているのを見ました。まるで彼らと約束した「うちの従業員やその家族に何か大きな問題が起きて、自分らの力で解決できないとき、わたしは進んで皆さんを助けますから、安心して働いてください」という言葉を忘れないようにと念の押すかのように。このほか従業員の住宅問題についても、将来の需要に備えて近くの地盤に注意を払うなど行き届いたシステムを構築しています。また最近、医療健康関連のチームを設立、従業員の水衛生や健康のケアを行っています。こうした諸々はすべて董事長の家長主義の産物です。

董事長の優しく暖かい一面についてもお話ししましょう。董事長が従業員としていかに振った写真や従業員の書いた手紙を見ていると、董事長には厳しい一面のほかに優しく温かい一面もあることがよくわかります。これは、最初は信じられませんでしたが、その素晴らしい賞賛は賞賛しないうけにはいきません。正直いってわたしは董事長のこちらの一面のほうが好きです。これによって会社は温かい家庭の色を強め、みんなの心がひとつになるからです。それに半世紀にわたって築き上げた企業の中で楽しそうに若い世代に接する董事長の姿が本当に素晴らしい見えます。

三、多元融合による合璧の魅力
合璧のもう一つの魅力は多元融合です。その企業文化は内容豊富で人を引きつけ、多元社会におけるよい例となっています。合璧会社の価値観には東西文明の融合が見られ、そこには重要な倫理感が存在します。また、経営者の処世哲学には儒教の精進、仏教の願う力、道教の平和などの要素の融合が見られ、生活や精神面の安定が保たれるようになっています。さらに、それは百花繚乱の華やかさを備えるとともに「吾道一以貫之（わが道は一つこれを貫く）」の美学を備え、多くの人から感心されています。このほか合璧の研究開発や生産には伝統とハイテクの融合や工業と美学の調和が見られます。合璧の製品が厳しい審査を通過し、技術的にも高い評価を得ているのも納得のいくところです。

四、結論
今回の上海合璧の見学旅行は瞬間に終了しました。この間、楊經理や董事長にはいろいろとお世話になりました。特に董事長にはそのためにわざわざ台湾に戻る時間を遣らせるなど気を使っていたばかり、感謝の気持ちでいっぱいです。

帰りのバスで窓から上海の街の風景を見ながら、今日の上海合璧と30年前に三重（台北の郊外）の路地に創立した合璧のことを思い浮かべて、その変化の速さに驚きました。何事も変化するということが変わらない。そんな社会において、上海はこれからどう変わっていくのでしょうか。そして何を残していくのでしょうか。一方、合璧についてもわたしは将来どうなるのか見当が付きません。ただ、董事長の処世哲学、経営理念、価値観、従業員を家族のように思う精神は今後長く伝えたいのだからと思えます。それは合璧だけの宝ではなく社会全体の宝になっていくと思えます。

台湾台 姪の婿 洪清海

一生忘れない五千元の悲哀!

お金の多い少ないにかかわらず、人は家族を養い生きていくために汗を流して働きます。しかし、董事長はそうではありません。すでに中国でも有数の富裕な人物だからです。では、どうして董事長は働くことをやめて気楽な隠居生活を送らないのでしょうか。一生奮闘し続けた董事長は晩年の人ごみり過ぎず資格があるはず。にもかかわらず、董事長は4歳になった今でも少しも怠りず、それに落ちぶれもしません。人生は山あり谷ありといわれますが、董事長は困難に陥ったときでも常に強い意志で自らやるときには他人のためにそれを乗り切ってきました。董事長は輝かしい事業での成功、財源、名誉といったものをすでに手にしています。その上まだ何を欲しているのでしょうか。それを考えてみました。そしてわたしなりに出した答えが「感謝報恩、回饋社会（感謝と報恩の念を以って、社会に寄与する）」です。

董事長は自らの経営理念を語ると、社会に「感謝報恩、回饋社会」に対して強いこだわりをもって

います。これを探ると何か原因があるはず。さて、これを探るに当たってまず董事長の幼少期のことからお話ししましょう。董事長は幼少期のことを振り返ってこういっています。「当時三歳か四歳の姉がまだ歩けなかったわたしを背負っていつも散歩に出掛けたそう。幼い姉が背負っている、その光景を想像したとき、わたしはそこに尊い兄弟愛という一種の「真善美」を感じました。また、董事長は成人したあとも、このときのことがどうも記憶の中に残っていたのではないかと思っています。そしていつと真剣に姉のことを守ろうとしたのだと思います。しかし、世の中は何が起こるかわかりません。姉は5歳のときこの世から旅立ちました。死因は盲腸でした。皆さんも知ってのとおり、盲腸はがんなどの病気をちがって恐ろしい病気ではありません。しかし、その盲腸によって小さな命が奪われたのです。彼女は可愛さあふれる幼少時代も、活発な子供時代も、一番きれいな娘時代も、新婚のうれしさも、子供ができて一家を築く喜びも、子孫に囲まれる老後の幸せも、何一つ経験することなく亡くなったのです。五歳という若さで。

こまでの話を聞いて、盲腸は治る確率の高い病気ではないのかと皆さんは思われたかもしれません。そうでは。確かに治る確率の高い病気です。しかし、そのとき董事長の家にはお金がなかったのです。収入の少なかつた董事長の家には全部で14人の子供がいて、食べていくだけでもたいへんでした。では治療にはいくら必要だったのでしょうか。それほど大きな金額ではありませんでした。人民元で五千元です。両親はそのお金を用立てるためにあちこち走り回りました。しかし、どうにもなりません。わずか五千元が借りられませんでした。どうしてだれも正義の援助をしなかったのでしょうか。小さな命を救ってくれなかったのでしょうか。社会に呼びかけてくれなかったのでしょうか。五千元がひとりの命を奪いました。彼女が去っていくのを家族はただ黙って見つめるしかありませんでした。苦しみの中で天国へと旅立つ彼女を家族はただ涙を浮かべて見送るしかありませんでした。

彼女が亡くなって70年が経ちました。しかし、自分を背負ってくれた五歳の姉の姿が董事長の頭には焼き付いているようです。五千元。これで人の命が救えるなら、今や事業で成功し、中国でも富裕な人物に数えられる董事長には何人の人が救えるでしょう。しかし、いくら董事長でもなくなくなってしまった命を救うことはできません。命を切るような辛さが董事長の中で今となってはどうすることもできない小さな愛をいつしか大河のように大きな愛へと変えていきました。会社の中でも外でも。それが無数の「感謝報恩、回饋社会」につながったのです。交通事故に遭った守衛の黄保仿さんのお父さんがお金がなくて病院から門前払いを食らいそうになったとき、迷わず会社の碎屑に3万5千元を届けさせて尊い命を救ったこと。電気工金茂武さんの娘、金曉松さんのがん治療に対する長期援助。作業員袁英さんの心臓手術に対する援助。交通事故死した作業員苗苗さんの家族に対する慰問から事故処理に至るまで。このほか、社外にも董事長の援助を受けた人は数多くいます。銀川職業教育センターの孫福梅校長の息子が血小板の減少する病気をかかったとき、すぐに薬を送るとともに、その後毎月決まって千元を援助していることをはじめ、その例には枚挙に暇がありません。

董事長の援助は精神的な激励のほか、金銭面だけでも五千元の何倍にも及びます。これらはもしも董事長の心の中に残る悲哀と痛みを埋めるためのものかもしれません。ともかく董事長の言葉、「わたしは感謝によって成長し、報恩によって達成感を得る」は董事長の生活哲学、使命感となっていると深く感じました。董事長は五千元の悲哀を一生忘れないのです。

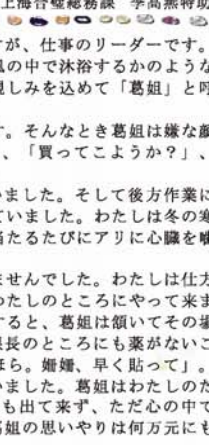
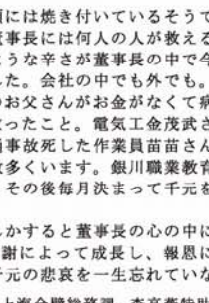
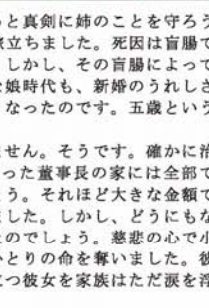
心に響いた小さな出来事

彼女の背は高くありませんが、大きな責任を背負います。彼女は痩せていて少し弱く見えますが、仕事のリーダーです。彼女は同僚に気軽に話しかけ、満面の笑顔で親しく接します。まるで春風の中で沐浴するような素敵な感覚で。彼女は進んで同僚を助けます。そんな彼女はみんなから親しみを込めて「葛姐」と呼ばれています。

日増しに寒さが増して冬になると、多くの人が病気をしやすくなります。そんなとき葛姐は嫌な顔もせず、わたしたちを気遣ってくれます。そして何度も「薬はある?」、「買ってこようか?」、「少しはよくなった?」、「気をつけなきゃダメだよ」と聞いてきます。その日T4103のラインには新人が加わっていたためか不良品が増えました。そして後方作業にあたる品質検査部門では班長や古株作業員たちがどこかなくいらしていました。わたしは冬の寒さで両手が何箇所も裂けていました。ケールの検査では製品が傷口に当たるとにアリに心臓を刺されたような痛みが走り、思わず「うっ」と声が漏れるほどでした。このとき班長も創可貼（傷用の絆創膏）を探してくれましたが、ありませんでした。わたしは仕方なく、痛みをこらえながらケールの検査を続けました。すると葛姐がわたしのところにやって来ました。「どうしたの?どこか具合でも悪いの?」。わたしが状況を説明すると、葛姐は領いてその場を去りました。わたしは、葛姐は薬を取りに行ったのではなく、退勤したのだと思いました。周課長のところにも薬がないことは知っていました。ところが、しばらくして葛姐が息を切らせながら帰って来ました。「ほら、早く貼って。彼女はわたしに創可貼を一箱くれました。彼女の頭から雨に濡れたあとの髪がぼたぼたと落ちていました。葛姐はわたしのために創可貼を買いに行ったのでした。わたしは心の中に温かさを感じました。しかし、言葉は何も出て来ず、ただ心の中で「ありがとう。葛姐」といっただけでした。創可貼の値段はわずかにすぎませんが、このときの葛姐の思いやりは何万円にも値するよう思いました。

上海合璧製造課 鄒繼輝

台壁は我等温モりの家；我は台壁を愛し、台壁は我を愛する；關心關懐關照 同心同步同調!



上海合璧製造課 鄒繼輝